

ドラッグインフォメーション

平成30年4月作成

販売名	グリセリン浣腸液 50%「ヨシダ」	製造販売	吉田製薬株式会社	
洋名	Glycerin enema“yoshida”	発売年月	2009年9月	
一般名	グリセリン	薬価収載年月	2009年9月	健保適用
剤形	液剤	薬価	50% 10mL 10.50	
日本標準商品分類番号	872357	規制区分	普通薬	
厚生労働省薬価基準収載医薬品コード	2357701K1105	YJコード	2357701K1105	
構造式	$ \begin{array}{c} \text{グリセリン} \\ \text{CH}_2\text{OH} \\ \\ \text{CH OH} \\ \\ \text{CH}_2\text{OH} \end{array} $	性状	無色澄明、粘性の液でにおいはなく味は甘い 本品の水溶液(2→5)のpHは、5.0~5.8である。 比重 d_{20} :約 1.11	
組成	本剤 1g 中日本薬局方グリセリン 500mg を含有する。 添加物としてメチルパラベン、プロピルパラベンを含有する			
効能・効果	便秘、腸疾患時の排便			
用法・用量	浣腸用として通常 30~60mL を用い、年齢、症状により適宜増減する			
薬理作用	直腸内へ注入すると、腸管壁から水分を奪取することによって局所を刺激すると共に便を軟化し排便を促進すると考えられる。			
使用上の注意	<p>禁忌(次の患者には投与しないこと)</p> <ol style="list-style-type: none"> 腸管内出血、腹腔内炎症のある患者、腸管に穿孔又はそのおそれのある患者[腸管外漏出による腹膜炎の誘発、蠕動運動行進作用による症状の増悪、グリセリンの吸収による溶血、腎不全を起こすおそれがある] 全身衰弱の強い患者[強制排便により衰弱状態を悪化させ、ショックを起こすおそれがある] 下部消化管術直後の患者[蠕動運動行進作用により腸管縫合部の離解を招くおそれがある] 吐気、嘔吐又は激しい腹痛等、急性腹症が疑われる患者[症状を悪化させるおそれがある] <p>1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)局所(腸管・肛門)に炎症・創傷のある患者[出血を促しグリセリンが吸収され溶血を、また、腎不全を起こすおそれがある。] (2)腸管麻痺のある患者[蠕動運動行進作用により腹痛等の症状を増悪させるおそれがある] (3)重症の硬結便のある患者[浣腸剤では十分な効果が得られず、腹痛等の症状を増悪させるおそれがある] (4)重篤な心疾患[症状を増悪させるおそれがある] 			

(5) 乳児[患児側の反応を十分に把握できない場合、過量投与の陥りやすい]

(6) 高齢者、妊婦[「高齢者への投与」、「妊婦への投与」の項参照]

2. 重要な基本的注意

連用により耐性の増大等のため効果が減弱したり薬剤に頼りがちになることがあるので長期連用を避けること

3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

種類 / 頻度	頻度不明
過敏症 注)	発疹
消火器	腹痛、腹鳴、腹部膨満感、直腸不快感、肛門部違和感・熱感、残便感等
循環器	血圧変動

注) 症状があらわれた場合には、投与すること。

4. 高齢者への投与

高齢者では過度の瀉下作用により体液量の減少等をきたし、脱水等を起こすことがあるので、少量から開始するなど身長に投与すること

5. 妊婦への投与

(1) 妊婦: 妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること

(2) 流産: 子宮収縮を誘発して流産を起こす危険性があるので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい

6. 適用上の注意

使用時

1) 瀉腸用にのみ使用すること

2) 注入に際し、直腸粘膜を損傷することがあるので、慎重に挿入すること

挿入時、損傷を起こし、出血がみられた場合、グリセリンが血管内に入り、溶血を起こすおそれがある。

3) 患者の状態を観察しながら投与し、異常が認められた場合には直ちに投与を中止すること

取扱上の注意

貯法: 室温保存

包装単位: 500mL

文献
請求先

吉田製薬株式会社 学術部
東京都中野区中央5-1-10